



5. 地域の自然や社会との関わり	5、6月子どもたちが生き物や草花をもった来た時は自然環境が充実するが、その後継続が難しい。ちょっとした自然環境に対してアンテナを高くしておきたい。	C	先生たち自身、自然の中で遊ぶ経験がほとんどない世代。その楽しさや研修や下見を丁寧にする必要がある。	A
6. 研修と研究	園内研修を行う時間をもっと増やしたい。他のクラスの食育の取り組みを見るチャンスも必要。教育指導要領を念頭においておくよう、繰り返し読み合わせする場をもちたい。	B	忙しい中研修時間を捻出するのは難しいが、ちょっとした時間を見つけて行えるようにしたい。園内研修をするための研修というものもあるなら参加してみるのもよいだろう。	B

※自己評価結果の表示方法

A…十分達成された  
B…達成された  
C…取り組んだが達成が十分ではない  
D…取り組みが不十分であった

※学校関係者評価結果の表示方法

A…十分に達成されていた  
B…達成されていた  
C…取り組みはみられたが達成が十分ではない  
D…取り組みがみられなかった

#### 4. 次年度以降に取り組む課題（継続）

- ・行事や活動のねらいを押さえる。（その活動を通して、子どもの中に何が育まれてほしいか）
- ・活動の連続性や導入を大切にする。（子どもたちの主体性を育み、見通しを持って生活し遊べるようにする。）
- ・安全危機管理について考える。